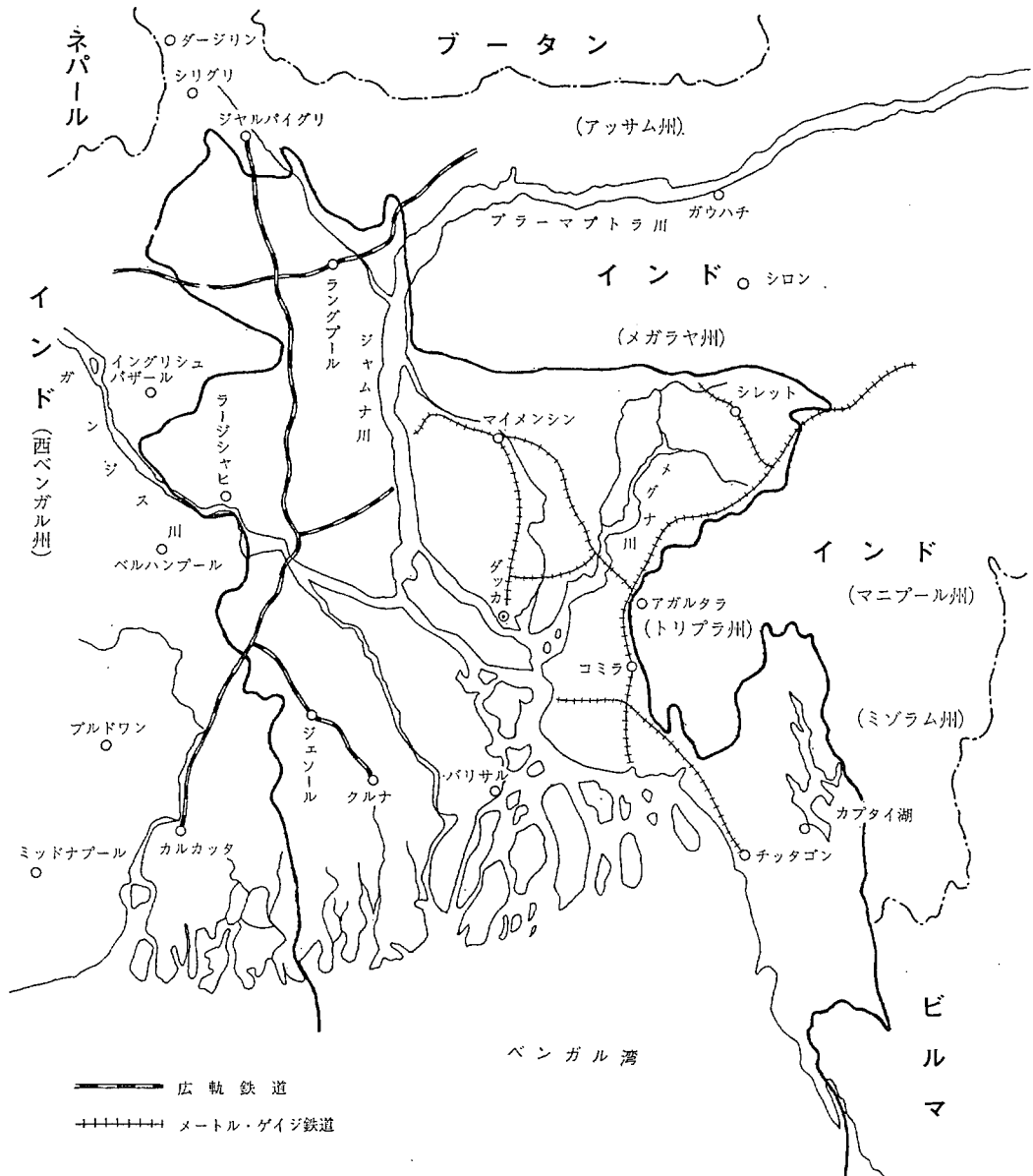


# バングラデシュ

バングラデシュ人民共和国

面積 約14万km<sup>2</sup>  
 人口 9362万人 (1983年央)  
 首都 ダッカ  
 言語 ベンガル語, 英語

宗教 イスラム教 (ほかにヒンドウ教, 仏教)  
 政体 共和制  
 元首 H・M・エルシャド大統領  
 通貨 タカ (1米ドル=25.00タカ, 1983年末現在)



# 1983年のバングラデシュ

## 揺れる民政移管の構図

桐 生 稔

2年目を迎えたエルシャド政権は、政権の恒久化に向けてその手続きを急いでいる。一方、こうした手続きに対して各種政治勢力は激しく反発し、軍政の描いた民政移管は何度も変更を余儀なくされた。これまで四分五裂化していた野党勢力は「民主主義復活」を旗印に、これまでには見られなかった共闘の形をとれるようになって、84年に向けてその運動を強化する形勢にある。エルシャド軍政にとって、自らの論理だけでの民政復帰はきわめて難しくなってきた。84年をつうじて、民政への手続きが具体化するなかで、大きな波乱が起りそうである。

### 国内政治□□

○民政移管をめぐる 1983年の国内政治は、エルシャド戒厳司令官による憲法復活宣言（1月30日）を皮切りに、民政復帰のための手続きとスケジュール作りを中心に動いた。エルシャド軍政は、82年をつうじて汚職官吏の追放を軸として清潔な政治体制の復活をめざし、末端行政の改革（タナの整備）をつうじて軍政基盤の確立を試みてきた。またイスラーム化を進めることで、国民の支持を得ようとしたのである。国軍においては他に基盤を持たない軍政権としては、その恒久化を図るためには、自らの支持勢力を育成しなければならない。エルシャドは独自の政権恒久化の方法を模索してきた。その構図はほぼ次のように要約されるだろう。

第1にエルシャド自身が権力を掌握する形で民政の構図を描くことである。そのために、議会選挙の前に大統領選を行ない、自らが就任することである。この布石はすでに12月11日に自ら大統領に就任することによって築かれた。大統領として権力を集中しているまま大統領選に臨めば、有利

に選挙を戦えるはずである。しかも大統領選は是非でも国会議員選挙の前に行なわなければならない。エルシャドのこの政治的企図が野党の強い反発を受けたことは当然である。

第2にエルシャド自身の政治基盤を確立することである。このために、地方自治体の整備をつうじて、支持基盤を広げようとした。彼自身これを「草の根民主主義」と称して、地方自治体の権限を強化する形で改革し、軍政支持者を送り込んだ。そして大統領、国会選挙に先がけて12月には末端の地方議会であるUP（村落議会）選挙を行なったのである。野党勢力が結束を強めないうちに地方議会で自らの支持基盤を作ろうとしたのである。

またエルシャドは議会選に向けて自らの政党づくりを行なった。ジア元大統領が自身の政治基盤として作り上げた民族党（BNP）の主流はジア未亡人をリーダーとしてすでに軍政反対の立場にあるため、エルシャドとしては既成政党を抱え込むわけにはいかない。11月27日にJanadal（人民党）が結成され、アフサン大統領（12月10日辞任）が総裁に就任した。これは明らかにエルシャド自身がその与党となるべき政党をつくらうとしたものといえる。JanadalにはBNPの一部も参加して、ジア元大統領が組織した当時のBNPのような国民政党をめざしているが、二番煎じが通じるといえる。もちろんこの政党結成によって、国会議員選挙に臨むわけだが、思惑どおり、選挙で過半数を確保できるかどうかは微妙である。

第3に国軍内部の団結を維持することによって国軍を自らの政治的背景としようとしていることである。戒厳司令官となって以来、エルシャドは既成の政治勢力の反軍政的動きに対処しながら、国軍内部の動きにも充分警戒を強めてきた。国軍内に存在する独立戦争をめぐるのいわゆるパキ

スタン帰還組と独立戦争参戦組との根強い対立はいまだ解消したわけではない。また進行する世代交替に伴う世代間の軋轢も見逃すわけにはいかない。エルシャドは軍内のこうした問題にかなり神経を使っている形跡がみられ、いまのところ対立は表面化していない。いずれにせよ国軍の結束を前提とするエルシャドの国軍への指導力の維持は彼の政権担当には必要不可欠の条件である。民政移管への手続きのなかで、国軍上層部をどうまとめいくかひとつの課題である。この手続きに難航するようなことがあれば、エルシャド自身が第2のジア元大統領となって、新しい軍政が登場することも充分考えられるからである。

●反発強める野党 さて、このようなエルシャドの民政移管への準備は、当然のことながら野党からの強い反発を受けることになった。とくに83年をつうじて野党が問題にした点は、エルシャド軍政が民政になってもそのまま政権を担うことができるようにその手続きを進めようとしていることである。その最大の争点は大統領選挙を国会選挙の前に実施することとしたこと、また大統領権限を大幅に拡大するよう憲法を改正しようとしていることについてである。

4月1日に政党活動の禁止が解除されて以来、各政党は精力的に反軍政民主主義復活運動を展開しはじめた。しかし30指に余る群小野党であるから反軍政のための決定的な政治勢力となるためには野党間の連合が必要となる。二大野党勢力であるアワミ連盟(AL)と民族党(BNP)とがその要にならなければならない。ALはすでに四分五裂化しているものの、故ムジブル・ラーマンの遺児であるハシナ女史を中心に結束を固めつつあった。

しかし、7月にALの強力な指導者アブドゥル・ラザクがAL主流から分離、AL(ラザク派)を結成した。10月にはM・アーメドなどの幹部5人が離党(除名)するなど必ずしもその結束は強化されていない。一方、民族党は82年の総裁選のこじれから、ジア政権時から比べ、その勢力は大きく衰退しているが、ジア元大統領の未亡人ハレド・ジア女史が副総裁となって、中道的な役割を強調している。しかし11月にはエルシャドの声掛りで人民党が結成されるに及んで、有力な幹部がこれに

合流するなど、ジア女史の指導力はいまひとつ不足している。この二大野党を指導する2人の女史はいずれもバングラデシュを代表する政治指導者の肉親であり、いわば彼らの政治的遺産に依拠している。それだけに2人の女史の指導力が問題にされようし、とりわけ今後民政移管が具体化するなかで、どのように彼女らの力が発揮されていくのか、また党内の結束をどのように図っていくのか注目される。

だが、エルシャドの露骨な政権担当意欲とそのための非民主的な手続きに対しては、野党はいっせいに強い反発を示し、民主主義回復のための野党連合が結成されたのである。11月1日、BNPを中心とする右派・中道の7野党とAL(ハシナ派)を中心とする左派15野党がそれぞれ別個の政治同盟組織を結成、両同盟は、(1)戒厳令の即時解除、(2)政治活動の全面解禁、(3)議会選挙の実施、(4)基本的権利の復活、(5)拘禁政治犯の即時釈放などの5項目を要求して全国ゼネストを呼びかけた。エルシャド政権となってから、野党が連合しての初めての具体的抗議行動であった。このゼネストはエルシャドの訪米期間中に行なわれ、比較的平穏に実施されたが、エルシャド政権にとっては、かなり深刻な打撃となったようだ。エルシャドは帰国後、ただちに各野党同盟に対し、話し合いを実行することを約束し、国内抗争鎮静化を要請したことから、野党の共同歩調に警戒心を強めたことが窺える。

しかし、11月14日、エルシャドは議員選挙の前に大統領選挙を実施するとの主張は取り下げず、それぞれの選挙日程を明らかにした。野党連合がこれに反発したことは当然である。またその後エルシャドの息のかかった人民党が結成されるに及んで、野党同盟はいっせいに反発を強め、11月27日、28日はダッカなど都市部でゼネストが実施され、暴動状態となった。

これに対して戒厳司令部は、4月以来維持してきた戒厳令の緩和を取消し、再び戒厳令の強化を指示して、力でこの動きを抑えようとした。そして2女史を含む二大野党の指導者を12月11日まで拘禁して、同じ日に、エルシャドが自ら大統領に就任したことを発表したのである。11月から12月にかけての一連の動きは、エルシャドの当初描い

た民政移管への手続の方法とスケジュールを少なからず変更させることになった。エルシャドは、本来なら少なくとも自分の論理で民主的に民政移管を実現し、しかも自身が政権を担当する形を作りたかったのである。すなわち、できるなら野党も納得したうえで、選挙を実施したかったにちがいない。またその裏には、野党がこれほどまで反発を強め、しかも、結束して連合できるはずはないとのエルシャドの驕りも見られる。11月中の野党連合によるゼネストを中心とする反軍政運動は、エルシャドにこれまでにないショックを与えたことは確実である。とりわけ、ジア女史の率いる中道右派の政治勢力までが、反発を強めたことにとまどった形跡がある。

とにかく、エルシャドは何としても大統領選を先行させ、自身の政治勢力を拡大しなければならない。そのためには、自らが大統領となって権力を集中したうえで大統領選に臨むことを決意したのである。それは国軍の力を借りてでも押しとおす構えである。こうしたエルシャドの態度に野党の間ではますます不信を強めているし、さらには知識人、学生たちの間にも民主主義復活の要求が昂まりを見せはじめた。

12月27日からはエルシャドの描いたスケジュールの第一弾として、ユニオン(全国で3443あり行政最小単位)議会の選挙がスタートした。野党勢力の強い反発とボイコットのなかで行なわれた。この選挙では各地で小ぜり合いがあったものの、結果的にはなんとか無事に終了したようである。この後さらに各レベルの地方議会選挙を行ない、大統領選挙を実施することになっている。野党勢力としては依然こうした民政移管へのスケジュールをめぐって激しく反発してくるだろう。とにかくこの時期に二派とはいえ、反軍政で野党が連合し得たことはエルシャドにとっては脅威である。

1984年に入って、3月末に実施する予定であった郡(タナ)議会選挙では、多くの立候補予定者が野党の呼びかけに応じて立候補を辞退して、事実上この選挙は無期延期が決定した。同時にエルシャドは3月に入って、内閣を改造し、自ら結成した人民党から新たに5名を入閣させ、文民政府を印象づけようとした。そしてついには大統領選挙と国会議員選挙とを同時に実施するところまでエ

ルシャドは譲歩しなければならなくなった。エルシャドにとっては大きな誤算であったといえよう。84年に入ってからのこうした状況の急展開は、エルシャド軍政にとって重大な危機である。このまま同時選挙に向かった場合、はたしてエルシャドの思惑どおり自らが政権を担当する形で民政移管に成功するかどうか難しい状況になってきた。この屈辱的な譲歩の結果、エルシャドの政治力は国軍内部でも問われる可能性が出てきた。この場合、エルシャドは再度、強権を発動して同時選挙を避けたり、民政へのスケジュールを遅らせることもできるであろう。しかし、いずれの場合もエルシャド政権の不安定要因を拡大するだけで、それはバングラデシュの終わりのない政治不安を生起するだけである。84年をつうじて軍内の動きがひとつの重要な鍵を握ることになるだろう。

## 経 済□□

○1982/83年度概況 前年度の経済成長率は独立後最低の0.9%にとどまったが、1982/83年度は3.8%にまで回復した。稲作の伸び(5.6%)を中心に農業生産が対前年度比5.09%の伸びを示したこと、天然ガス生産が相変わらず16.86%と高い伸びであったことが主因である。しかし、工業部門は主力のジュート、綿工業がいずれも大幅な生産減となったことで全体の伸び率はわずかに0.79%にとどまった。また前年度いずれもマイナス成長であった運輸、商業部門とも回復の兆しは見えたが、いずれも2%台と伸び悩み、低迷を続けている建設部門は、-4.61%と不振であった。こうしたことから経済は全般的に2年続きで厳しい状況となった。

○拡大する貿易赤字 長い間低迷していたジュートおよびジュート製品の輸出価格が対前年度比平均約20%上昇したことによって、量的には伸びが低かったものの輸出収入が29.6%と大幅に増加したため、輸出総額は前年度比27.4%増加して160億タカ(6.8億ドル)となった。その他の輸出産品ではナフサ、紙などが減少したものの、近年輸出戦列に加わった縫製品は2.2億タカと前年度に比べ

61%の増加となった。この縫製品輸出はチッタゴン地区で開発が進んでいる輸出加工区での生産が開始されればさらに伸びる可能性がある。

一方輸入は小麦、米などの食糧輸入が大幅に増加し、石油輸入、工業用原材料ともに増加したため、輸入総額では対前年度比58%増となり、輸出の増加率を大きく上回った。食糧輸入は、前年度の稲作が不振であったことから、小麦170万ト、米34万ト、合計204万トとなり、前年度の輸入量に対し71万トも増加した。なお輸入総額中の食糧輸入額の比率は21%となり、前年度の16.8%からさらに増加した。

こうした状況のため貿易収支の赤字幅はさらに拡大して、386.5億タカ(16.3億ドル)となり、前年度に比べ75.8%の増加となった。しかし、中近東出稼ぎ者からの送金が118.3億タカ(約5億ドル)となり、前年度に比べ53%も増加したこと、また外国援助受取額も26.5%増の319.5億タカ(13.5億ドル)となった。なお83年12月末の外貨準備高は5.24億ドルで前年末より3.42億ドルも増加した。1983年末の対外累積債務残高は14.27億ドル、82/83年度の債務返済額は1.36億ドルで、返済比率は初めて20%台を超えた(21.01%)。

83年に入って出稼ぎ者送金の伸びが鈍りはじめ、さらに外国援助も年間約束額が20億ドルに迫っていることなどから、国際収支の先行きは明るくない。このため、貿易収支の改善が重要課題である。国内食糧生産の増加による食糧輸入の減少を図らなければならない。同時に輸出の拡大と多様化が迫られているが、最大の輸出産品であるジュートは、国際市況が不安定で、しかも将来伸びる可能性が低い。とくに輸出価格の変動が近年激しくなる傾向にある。このためジュート輸出国間の調整にバングラ政府は積極的であるが、問題は多い。これに代わって近年急速に伸びつつある水産品や縫製加工品の輸出に期待をかけているが、ジュート輸出の減少をカバーできるまでにはまだかなりの時間が必要であるし、開発投資も必要となる。当面は食糧輸入の削減努力が最も効果的である。

●伸び悩み食糧生産 ジア政権下で策定された第2次5カ年計画では1985年までに食糧自給が達成されるはずであった。しかしこの5年間での食

糧輸入は年平均60万トに達しており、自給達成までにほど遠い。稲作は2年続きで不作で、小麦生産も伸び悩んでいる。稲作の伸び悩みは主力のアマン期作が洪水被害を受けるなど、天候に左右される要因がいまだに大きく、生産の安定性が低いこと、またHYVの普及によって伸びが期待されているポロ期作が、ここ数年間ほとんど伸びていないことなどが原因である。とくに天候が安定する乾季稲作(ポロ)は単位収量も高いため、灌漑施設の拡充があれば、かなりの伸びが予測されている。ポロ期の生産量は80/81年度の18.9%から82/83年度には25%にまで伸びているし、同年度の生産量は対前年度比12%増を示した。しかし主力のアマン期作がこの数年ほとんど伸びず、また全生産量の21%(82/83年度)を占めるアウス期作は年々減産傾向であるところから、ポロ期作の順調な伸びが稲作全体の増産効果として作用していない。少なくともアマン期作の安定的生産が確保されない限り、こうした傾向は今後とも続くであろう。

なお食糧自給達成のために力を入れていた小麦の増産も1980年代に入って、灌漑施設の不備などで停滞気味であり、82/83年度の小麦生産量は110万トにとどまった。

●減産続く工業生産 製造業は82/83年度軒並み減産であった。とくに不振を続けるジュート加工、綿紡織の落ち込みが目立つ。製品別生産量の対前年度比でジュート製品-32.01%、綿糸-23.1%、綿布-37.63%とその減産は大幅なものであった。この他砂糖、印刷用紙、茄性ソーダ、車輛、鉄鋼などほとんどが10~50%の減産であった。ジュート工業の不振は国際市況の悪化による生産調整のためで、平常操業率の50%に落したことが主因で、その他には電力不足、労働問題などがひびいた。砂糖は原料の砂糖キビが病虫害によって減産したためで、印刷用紙は工場設備の老朽化、車輛、鉄鋼などは電力不足と原材料供給不足などが原因であった。

こうした全般的な工業生産の不振のなかで、天然ガス生産が依然として高い増加率を示しておりこのため、天然ガス利用の尿素肥料生産は37万ト、と史上最高を示した。

なお政府の進める国営企業の払下げは、82/83年度中には、旧パキスタン資本系の24企業が民間に払下げられ、13企業で払下げの手続きが行なわれた。また国営企業のうちジュート加工28工場と繊維22工場が、旧所有主に返還された。これらはすべて1982年6月に発表された新工業政策(NIP)に基づいて行なわれたもので、83年にはさらに中期工業投資修正計画が発足して、国営企業の払下げの促進を計画している。また外国企業の誘致については、当年度中に19件の外資プロジェクトが認可され、投資額は10.5億タカとなった。

なお、政府は3月17日に18項目の経済政策を発表したが、このなかでも、経済開放をトップ・プライオリティとして、民間投資の奨励と外資の積極的導入を進めるとしている。また農村開発方式として、村落単位の自力更生、農地改革、協同組合による農村工業の発展を図ることを強調している。

また10月には1985年から予定される第3次5カ年計画の草案が発表され、総投資額は現行計画(第2次計画)の15%増に当たる2850億タカを計上し、成長率目標を年平均6.8%と設定した。この資金調達のうち外国援助を第2次計画(計画では総投資の41.2%)よりさらに抑制して35%と見積っている。しかし、国内資金調達は各場面で困難に直面しており、今後も明るい見通しが見当たらないところから、実質的には援助依存を強めていかねばならないだろう。この国の経済開発の最重点課題はあくまでも食糧問題の解決であり、いかなる政権が登場してもこの問題は避けて通れない。しかし、エルシャド政権はジア政権が着手しはじめていた村落による自力開発方式を本格的に進めようとしており、このための行政改革など制度的な環境整備に真剣さが見える。もちろんこうした開発方式が政権の基盤確立という政治的な意図も含まれているところから、この成否は民政移管も絡む政治情勢にかかっているといえる。

なお物価は食糧生産が不振だったにかかわらず、食糧輸入が順調に行なわれ、また輸入価格が下落したことで、国内食糧価格が安定、さらには全般的な不況が影響して一般消費者物価の上昇率は前年度の14.24%(7~3月)から6.43%(同)にまで下がった。また卸売物価も5%(同)と落ち着いた動きを示した。

不安定な国内政治のなかで、エルシャドは引き続き積極的な訪問外交を展開した。エルシャド政権の国際的な認知を進めることと、外交推進による国内不安の鎮静を狙った。なかでもイスラーム化を提唱しているエルシャドにとってイスラーム諸国との緊密化は不可欠である。このため、エルシャド自らクウェート、ヨルダンを訪問したことを皮切りに、3月の非同盟首脳会議では精力的に各国首脳と会談、12月には国内の混乱のなかで第14回イスラーム諸国外相会議をダッカで開催して、イスラーム諸国間の結束にバングラデシュの果たす役割を印象づけようとした。

また大国との外交も推進され、エルシャド自ら10月には訪米して、「アメリカとの友好関係は不滅である」と述べるなど親米的立場を表明した。このほか83年内にはエルシャドはフランス、ビルマ、ユーゴ、モルジブなどを公式訪問した。

なお、同年内にバングラデシュを訪れた外国首脳は、マハティール・マレーシア首相、プレム・タイ首相、トルドー・カナダ首相などで、11月にはエリザベス英女王が来訪した。こうしたなかで、外交官の強制退去命令などでソ連とはまったく冷えきった関係となっている。政党活動の解禁以来、国内反政府勢力に対するソ連の働きかけにエルシャドは警戒を高めており、ソ連からの援助も停止のままになっている。またイスラーム諸国外相会議では、ソ連のアフガニスタン侵攻を激しく批難した。インドとの関係は、アッサム州内での反ベンガル人暴動をめぐって、インドが国境に鉄条網を敷設すると言明したことに対し、バングラは強く抗議するなど、基本的には友好関係を推進しようとする態度は見られるものの具体的な進展はない。また懸案の印・バ河川会談も何度か開かれたが、その都度歩み寄りのないまま物別れの状態が続いている。エルシャドにとっては、反対運動が昂まるにつれて危機感を国民に呼び起すためにも反インド的な姿勢を今後強めていくことも予想される。それはバングラデシュの外交の宿命でもあり、また政権担当者にとって、もっとも手っ取り早い反政府感情の回避の方法であるからだ。

1月

1日 ▶マクファーソン USAID 長官、現バ政府の経済開発政策を評価、今後も援助を継続すると発言。

2日 ▶アメリカ AID は1億6200万ドルの対バ援助を約束。

4日 ▶エルシャド、Aga Khan Ismailia 王子と対談。イスラム世界における同イマムファミリーの役割を評価。同王子は7日までバングラに滞在。

▶エルシャド、マザーテレサと対談。

5日 ▶Wuttke 国際金融公社副総裁、バ政府の民間部門活性化政策を評価。今後も輸出強化と共に尽力すると言明。

▶Muhith 蔵相、貸し出し手続きの簡略化を提唱。

9日 ▶政府、ダッカ大学における反政府運動学生に警告を発す。

10日 ▶エルシャド、警察に国民の信頼を得よう要請。

▶教育省、教育組織再編成のために質問票をタナごとの教育事務所をはじめ関係機関に配布。

11日 ▶エルシャド、バングラデシュ・キリスト協会の集いで、政府の目的は真の民主主義の実現であると言明。

▶タカ、市場で安定。買値で1ドル=24.48タカ、売値で1ドル=24.52タカ。

12日 ▶Bakhrabad ガス・システム完成間近。この完成により110億タカ相当の石油輸入削減が可能となる見込み。

14日 ▶ドハ外相、マナグアで非同盟諸国閣僚会議に出席。会議の後、同外相はカメルーン、チャド、韓国の外相と会談した。

▶エルシャド、国際イスラム会議（バングラマドラサ教師連盟主催）で、イスラムの精神を第1に憲法に謳うと言明。

15日 ▶(ダッカ)印バ河川会談、専門家レベルで開催。印代表は Padhve 灌漑相他6名、バングラ代表は Shamin Ahsan 灌漑省次官他8名。

▶日バ文化交流会で大塚バ大使、日バ友好は一層充実してきていると言明。

16日 ▶教育省、科学をクラスIXの必修にすることを決定。また、音楽教育を小学校に導入することを決定。

18日 ▶エルシャド、政府は国民のために、地方分権化、人口抑制などの諸改革を行なうと言明。

▶Mahmud 食糧相、国内食糧輸送の自由化を言明。

▶ドハ外相、ピム英外相とロンドンで会談。国際情勢と2国間の経済関係について話し合いが行なわれた。

20日 ▶ADB、1億800万ドルの対バ借款に調印。10年据置40年返済、年間サービス料1%。内容は、4500万ドルを南西ガス輸送、3500万ドルを Ashuganj 発電プロジェクト、2700万ドルをボラ島灌漑プロジェクトに使用される。

21日 ▶OIC 会議、Darkar (セネガル)で開催。バングラからは Syed Najmuddin 情報相が出席。

▶Mahbubur Rahman 地方自治相、投資促進策と地方自治化は国内経済に活力を与えていると言明。

23日 ▶エルシャド、大学生に新しいバングラデシュ建設のため共同開発参加を呼びかけ。学生の政治運動の意欲はスポーツに向けられるべきと発言。

24日 ▶茶の輸出額、7億400万タカ(1982年7~12月)前年度比66%増。

▶エルシャド、学生運動に対し政府は話し合いによる解決を望むと言明。

▶IDA、730万ドルの SDR クレジットの対バ借款、この資金は IBA により教育設備拡充のため使用される。

25日 ▶バングラ、OIC 財政委員会の4メンバーに選出される。同委員会の仕事は国際イスラムニュース協会(IINA)の業務遂行など。

26日 ▶112タナ、4月までに第2段階に分けて整備を実施。3月24日までに55タナ、4月15日までに57タナ。

27日 ▶エルシャド、1県に1カ村のモデル村設置の計画を発表。

28日 ▶国内有権者リストの作成開始。

▶有権者登録開始。

29日 ▶Muhith 蔵相、地方への財政投資は国家経済の二重構造(伝統的経済と近代的経済)を改善し得ると言明。

30日 ▶エルシャド、憲法復活を宣言。憲法により国民の基本的人権を保証し、野党の存在を認めて民主主義の実現を図る。憲法に基づく一般選挙を実施し、政党間のいたずらな抗争が無くなることを希望するなど述べた。

31日 ▶エルシャド、訪クウェート。2月2日まで同国に滞在、その後モロッコへ5日間の予定で訪問。

▶海外労働者の送金、117億3230万タカと Aminul Islam 労働マンパワー相、報告。同相は ILO 会議で訪日を終え帰国。前年度の送金は62億タカ。バングラ人の新規の労働力受け入れはブルネイが積極的であった。

## 2月

1日▷エルシャド, Ahmed Al-Sabah クウェート首長と会談。クウェートは対バ援助継続を約束。会談ではイ・イ戦争, パレスチナ問題についても話し合いが行なわれた。

2日▷クウェート・バングラ共同声明。「イ・イ戦争は他国が干渉せずに2国間の平和的解決を希望する。イスラエルのレバノン侵攻には即時撤退を要求する。」サード首相との会談後に声明は発表された。

▷エルシャド, モロッコを訪問, 5日間の滞在。3日 Maati Bouabid 首相と会談。4日, Bouabid 首相, 「イスラム教と非同盟の精神の一致に基づき2国間の友好関係は強化された」と発表。エルシャド, 「OICの原則, 国連憲章に基づき, 独立外交の道を歩む」と言明。5日, エルシャド, ハッサン国王と会談。

▷カナダ, 1億2300万ドル, 35万トンの食糧購入のための対バ援助。

3日▷西ドイツ, 2万5000トンの対バ食糧援助に調印。

4日▷第24回印パ河川共同会議ダッカで開催。バングラ代表は Obaidullah Khan 農業相。

6日▷ダッカ大学構内で2学生グループが衝突。約100名が重軽傷。逮捕者ゼロ。Isrami Chhatra Shibir グループがカリキュラムのイスラム色強化を創立記念の会合で訴えていたところ, 反対派の学生が乱入して乱闘。

▷エルシャド, 訪仏。

7日▷エルシャド, ミッテラン仏大統領と会談。南北問題, 非同盟運動, 中東情勢などについて話し合いが行なわれた。ミッテラン大統領, 1週間以内に政府要人をバングラデシュに派遣すると約束。

▷UNICEF, 幼児死亡を防ぐため1億ドルの対バ援助。

▷エルシャド, 訪ヨルダン。

8日▷エルシャド, フセイン・ヨルダン国王と会談。中東問題, イスラムの団結について話し合った。この後帰国, 4カ国訪問は成功であったと述べた。

▷第6回ジュート生産協議会(ESCAP 後援)ダッカで開催。

▷ドハ外相, 訪パキスタン。

9日▷ドハ外相, S. Q. Khan パキスタン外相と会談。2国間の友好関係強化に合意。

10日▷ダッカ市は, 婦人問題委員会(会員57名)を設置。

11日▷M. J. Chowdhury 内務相, 政府は大学構内鎮静のため非常手段を取ることも躊躇しない, と言明。

12日▷ダッカ医科大学(DMC)で献血所が放火され

全焼, 犯人は不明。この献血所は“Sandhani”学生自治グループの献血活動のため設置されたもの。

13日▷M. A. Khan 戒厳令副司令官, 公務員に対しタナの組織整備に妨げとなる偏見を捨てるよう呼びかけ。

▷政府, 教育委員会設置を決議。

14日▷ドハ外相, ジャカルタを訪問。

▷ダッカ大学で暴動。死者1名, 警官50名が重軽傷。ダッカ大学は無期限の閉鎖を命じられた。

15日▷ダッカ・チャッタゴン市内で暴動。2人死亡, 逮捕者多数。

▷ドハ外相, スハルト大統領と会談。

▷ダッカ, チャッタゴン市内の全ての教育機関を2月27日まで閉鎖すると政府発表。Khan 戒厳令副司令官, タンガイルで「現政府はいかなる政治的野心も持っていない」と言明。

16日▷エルシャド, 15日に学生の暴動が発生した合同官庁舎を訪れ遺憾の意を表明。ダッカ市内は正常に戻る。ジャハンギナガル大学とマイメンシン農業大学は無期限の閉鎖処分。

17日▷政府はダッカ市内における2日間の暴動で拘留した1331人のうち1021名をすでに釈放したと発表。

▷タバ・ネパール首相, 訪バ。19日にエルシャドと正式会談。南アジア諸国の団結とネエバ2国間の友好関係強化を確認。

23日▷エルシャド, 軍部と国民により共同開発が進められているジュソールのモデル村12カ村を視察。国民に軍部への協力を呼びかけた。

24日▷エルシャド, 「政府の開発および改革努力は全て国民の福祉に貢献するものであり, 国民の利益を最優先にしている」と言明。

27日▷拘留された学生31名釈放。14, 15日の暴動で留置されたのは53名。

28日▷ビルマ・バングラ, パーター議定書に調印。バングラは5130万タカ相当の対ビルマ輸出, ビルマは10万トンの米を対バ輸出することになった。

▷学校・大学再開。11日間の閉鎖を解除された。



## 3月

1日▶政府、拘留中の政治家27人の釈放を決定。今年、来年の選挙を前に国内の民主化を推進するためと理由を説明した。このなかにはハシナ女史、トファイル・アームドらも含まれている。

2日▶IDB（イスラム開発銀行）、ダッカにイスラム銀行設立のため26万2000ドルの対バ援助。

3日▶Gayoom モルジブ大統領、来バ。エルシャド、アフサン大統領らと会談。

5日▶M. J. Chowdhury 内務相、法と秩序の維持をダッカ市自治団体に呼びかけ。

6日▶エルシャド、非同盟諸国首脳会議に出席するため訪印。

▶Bangla・モルジブ共同声明発表。南アジア7カ国団結、国連憲章、非同盟の原則について確認。

7日▶エルシャド、7カ国首脳とスピード会談。アラファト PLO 議長、スリランカ大統領、ザンビア大統領、パキスタン大統領、エジプト大統領、ブータン国王、インドネシア外相の7カ国である。

8日▶エルシャド、非同盟首脳会議で非同盟諸国間の団結を強調。

10日▶エルシャド、ガンジー印首相と会談。

14日▶エルシャド、地方政府および協同組合の代表を前に「新しいバングラ建設のため団結を」「現在は、軍部の介入によって国家を救わねばならない時期である」などと述べた。

15日▶今年12月実施の OIC 事務総長選挙で、18カ国がバングラを支持すると外務省スポークスマン発表。対立候補にはパキスタン他がいる。

16日▶Muhith 蔵相、国内投資に弾みがつきはじめたと発表。海外労働者の送金は6億ドル（前年度3.7億ドル）、輸出収入も6.5億ドルで前年度比3%増。輸入は4%減。

17日▶エルシャド、18ポイントの経済政策を発表。(1)経済開放により政治的独立を達成する、(2)富の平等分配、(3)村中心の開発、(4)工業製品増産により適正な競争と分配を保つ、(5)農業生産増と食糧の自給自足、(6)土地改革、(7)村落銀行を活用して低所得層に資本投入、(8)民間部門投資の拡大、(9)共同家内工業の充実、(10)行政・司法の地方分権化、(11)教育組織の改善、(12)雇用の拡大、(13)女性の国内開発参加と地位向上、(14)医療設備、(15)人口抑制、(16)汚職撲滅運動、(17)政治屋から政治家、(18)国民生活にイスラム的反映を、自国の言語文化を重視。

21日▶Mahamud 食糧相、現政策により国内の食糧状況は安定していると発表。

▶Khan 農業相、今年度食糧生産1520万トンを見込む。

近年にない増産は化学肥料の使用と灌漑によってもたらされたと説明。

24日▶55タナ新たに組織整備完了。これで整備完了したタナは155になった。270億タカのADP予算のうち現在までに140億が農村開発のために使用された。

26日▶第13回独立記念日。

27日▶閣僚会議、村落銀行（Gramin Bank）設立を決議。64支店が開かれる。この銀行は農民層に富を分配するためのもの。

28日▶有権者総数約4700万人（男2500万人、女2200万人）で1976年に比べ22.6%増。

▶南アジア7カ国外相会議、ダッカで開催。

30日▶フーバー世銀総裁、来バ（3日間の滞在予定）。「バングラ政府の経済政策は賞賛に値する。西側は援助を継続する」と述べる。

31日▶日本、3億2000万タカの対バ灌漑援助。期間は来年の3月31日まで。同期間に米10万トも援助予定。

▶IMF、8840万 SDR の対バ借款。近年、ジュートの価格低下と1981～82年の不作によりバングラの国際収支の赤字は GDP の14%に拡大された（1981～82年）ため IMF が本調整を行なった。

## 4 月

1日▷政党活動開始。昨年3月24日の戒厳令施行以来372日間の活動禁止が解かれた。

2日▷Khan 戒厳副司令官、チャッタゴン大学で教師・学生に対しキャンパス内の平静を保つよう要請。

▷BNP 新議長、Shamsul Huda Chowdhury に。

5日▷Obaidullah Khan 土地改革委員会議長（農業相）、新耕された茶畑を土地のない人々に分配すると発表。分配された土地を移譲することはできない。土地改革は耕作者の法的地位を認めて農作物増産と有効な土地利用を目的としている。耕作者は生産コストを支払えば生産物の67.5%を確保できる仕組。

6日▷エルシャド、海軍の重要性と強化を言明。

▷（リヤド）Sultan 戒厳副司令官、ヤマニ・サウジ石油相と会談。

9日▷バングラデシュ農業銀行、今まで最高の27億1000万タカを貸出し、課税前の純利益は9230万タカで経営の拡大が可能となったと銀行年間報告書は報告している。前年度比50%増。

12日▷エルシャド、ラールマティア女子大学で女性の国内開発の参加を呼びかけ。

▷129の小学校建設工事（費用総額1850万タカ）完了。Brahmanbaria に34校、Chuadanga に30校、Faridpur に13校、Rangpur に37校、Tangail に15校。別に現存する各校にトイレ設備敷設工事も施行された。

13日▷ドハ外相、3日間のブータン訪問。

▷バングラ、1987年G-77アジア地域閣僚会議のホスト役に決定。

14日▷バングラ Shilpa 銀行、バングラ Shilpa Rin Sangstha に対する国外からの援助再開。2機関は1982年中頃から経営不振のため国外からの援助を中断されていたが、経営基盤が固まったため KFW（西ドイツ）、IDA、ADB などの援助団体が資金投入を開始。

15日▷バングラデシュ・コンソーシアム開く。来年度18億ドルの対バ援助を約束（パリ）。同国は26カ国の政府と国際機関で構成されている。

17日▷Khan 戒厳副司令官、訪中（1週間）。

18日▷マハティール・マレーシア首相来バ。南アジア諸国の団結を強調。19日、エルシャドと会談。同夜、アフサン大統領を訪問。海上貿易と二重課税の免除についての二つの合意書に双方の外相が調印。20日バ・マレーシア共同声明発表。

19日▷ADP 予算（1982～83年）改正。270億タカから313億タカに増額。修正された ADP は、(1)道路・延屋・住宅の建設拡大（13億タカ）、(2)192のプロジェクト

を6月までに実施、(3)FWPの拡充。

▷Muhith 蔵相、第39回 ESCAP 年次総会出席のため訪タイ。

21日▷政府、グラナダと外交関係樹立を決定。K. M. Sahullah 退役陸軍少将を高等弁務官として派遣。

22日▷ドハ外相、シュルツ国務長官の招待で訪米。しかし、この直後アメリカの要請で訪米を延期。

▷バングラ政府、ドハ外相を OIC 事務総長のポストに推薦することを決定。

24日▷エルシャド、教育機関への政治介入回避を要請。

▷チャッタゴン大学再開。

26日▷茶の生産、今年度9カ月で6400万 lbs、前年度は同期間に6100万 lbs、外貨獲得高は9億7000万タカ。前年度は6億5000万タカである。

29日▷輸出収入、前年度比（9カ月）8.5%増。実数は1982年7月～1983年3月の9カ月で5億1000万ドル、前年度は4億7000万ドル。皮以外のジュート、生ジュート、冷凍食品、茶等の輸出収入の増加による。

30日▷エルシャド、農業改革こそ今、最優先になされるべき、と言明。

## 5月

3日 ▶ラージシャヒ大学、授業再開。

▶台風による大雨で各地に洪水の被害発生。

4日 ▶ドハ外相、「バングラはパレスチナ人の正当性を支持する」とクアラルンプールで開催されている「パレスチナ問題に関する国連会議」で発言。

6日 ▶Khan 情報相、洪水の被災地を訪問。「歴史に残る最悪の洪水。政府は被災者救済に全力を尽す」。

9日 ▶印バ河川協同会議 (JRC)、ダッカで開催。会期は3日間。

10日 ▶ドハ外相、訪韓。11日金相済国務院総理と会談。3日間の滞在予定。外相の韓国訪問は初めて。

11日 ▶UNIDO、8億4900万ドルの対バ援助。目的は40の工業計画実現である。

12日 ▶エルシャド、ビルマを公式訪問。サンユー大統領、マウン・マウン・カ首相らと会談。「2国間には如何なる問題も存在しない」ことで合意。

▶バングラ、サンタルシアと国交樹立。

▶イスラム開発銀行 ジェッダ支店、2億ドルの国内援助。ガス・パイプライン敷設のため。

13日 ▶アバル・ハリ・サウジ財政相、来バ。滞在期間は4日間。Muhith 蔵相の招待でサウジ・バングラ経済合同会議出席のため。

15日 ▶サウジ・バングラ、2735万ドルの対バ借款協定に調印。この協定は鉄道修復と灌漑用ポンプ購入の二つが目的。

17日 ▶Majeed Khan 教育相、「大学における学問的意義を尊重せよ。大学閉鎖を余儀なくされることは時間とお金の浪費である」。

18日 ▶ダッカ大学再開。約3カ月の閉鎖を解除される。

▶公務員216名の汚職に対する訴訟進行中。彼らは、82-MLO-9(戒厳令9号)により裁かれるが、すでに555名が警告を受け339名が釈放されている。

19日 ▶オランダ、7億9800万タカの対バ援助に調印。

▶FWP、目標の98%達成の見込み。1980～81年では82%、昨年は90%の達成率であった。

21日 ▶ドハ外相、サウジアラビア訪問(4日間の滞在予定)。22日にサウド外相と会談。

24日 ▶Khan 戒厳副司令官「地方分権化によって司法と行政の分離がわが国で可能になった」と述べた。

27日 ▶バングラ・モルジブ、ビザ協定に調印。相互に90日以内ならばビザ無しで旅行できることになった。

29日 ▶ドハ外相、ジャミール・モルジブ外相と会談。

30日 ▶ドハ外相、スリランカを訪問。ジャヤワルデネ

大統領と会談。

31日 ▶(ダッカ)バングラ・ネパール、長期貿易協定に調印。ネパールは豆、香辛料、高級タバコ等の対バ輸出を、バングラは尿素肥料、瀝青、電線等の対ネ輸出を計画。

▶バングラ、スリランカ外相会議で、2国間に共同委員会設置を決定。

## 6 月

3日 ▶Mahmud 食糧相は、食糧の貯蔵能力を1984年度までに200万トンにまで強化する予定と説明する。

4日 ▶BEPZA (バングラデシュ輸出加工区管理局) を開設。100%外資で経営 (海外常駐のバングラ人も含む)。

▶エルシャド戒厳司令官、社会の基礎にイスラム的価値観を確立するよう呼びかけ (Bangladesh Ulema Parishad と Bangladesh Qazi Samity の共同会議で)。

6日 ▶エルシャド戒厳司令官、大学における教師の重要性を強調。最近の大学構内における学生暴動は何人かの教師が学生を扇動して起こしたものであると説明。教師不適格者リスト作成も辞さない姿勢を示した。

7日 ▶エルシャド戒厳司令官、ユーゴスラビアを訪問。首脳会談と6日から開催されている第6回 UNCTAD 出席のため。ドハ外相も同行 (4日間の滞在予定)。

12日 ▶ドハ外相、ルーマニアを訪問。13日にチャウエスク大統領と会談。

▶エルシャド、ユーゴスラビア訪問は成功した。UNCTAD では年内に共同基金が設置される見込みであると説明。

13日 ▶Khan 戒厳副司令官、Sultan 情報相、3週間の仏、米、加3カ国訪問を終えて帰国。米国は Savar に原子力研究所開設のため、費用および燃料供給の継続を約束。

16日 ▶ (アンカラ) ドハ外相、Evren トルコ大統領と会談。

18日 ▶ダッカ大学構内で学生グループ同士が衝突。7名が刺傷され、25名が軽傷を負う。学生グループ Natun Balga Chhatra Samaj がラーマンホールに侵入しての衝突。Jatiyatabadi Chhatra Dal と Chhatra Sangram Parishad がこれを止めに入ると衝突が起きたもの。

20日 ▶輸出振興局 (EPB)、1983~84年の輸出目標を180億1600万タカにすると発表。1982~83年の目標は150億5000万タカであり、それに比べて17.16%増である。1983~84年では非伝統的な輸出品目の価格上昇が予想されている。

▶ (ワシントン) ドハ外相、シュルツ米国務長官と会談。同外相は18日から訪米中。会談は「満足のいくものであった」。アフガニスタン、カンブチア問題に対する共通姿勢を確認。

26日 ▶IDA、1億ドル (SDR) の対バ借款拡大を承認。農村開発計画援助のため。

28日 ▶米国、2654万ドルの対バ援助に調印。この資金は小麦供給のための1710万ドルと家族計画のための944万ドルに分けて使用される。

30日 ▶1983/84年度予算発表。

## 7月

1日 ▶ラーマン地方自治相、エルシャドが提言した18の計画のための実行委員会を村落(Union)、市町、郡、県にそれぞれ設置すると発表。

2日 ▶51タナ、組織整備完了。

4日 ▶ドハ外相、シュルツ米國務長官との会談(6月20日)、ルーマニア、トルコ訪問、UNCTAD-6出席を終えて帰国。

6日 ▶イスラム大学設立、トンギーで建設開始。イスラム大学設立は総額4億タカの予算で1980年12月から予定されていた。学生総数2000名(男子1300名、女子400名、修士博士レベルの留学生300名)を収容する。設立目的は、(1)イスラムに関するさまざまな研究の統合、(2)マドラサ教育の改良、(3)イスラムの教義、文化、文明に関する高度な研究、である。

7日 ▶ECNEC、20億タカ相当(外国援助13億4000万タカ)のプロジェクトを承認。深井戸建設のため。

8日 ▶政府、各タナ議会に3人の女性、1人の独立運動時の戦士を代表として置くよう指示。

9日 ▶総選挙、1985年5月に決定。それに先立つ地方自治体選挙をUPが今年の12月27日に、市議会では84年2月11日に、タナでは84年5月24日にそれぞれ行なう。

14日 ▶カーン DCMLA 北朝鮮を訪問(1週間の滞在予定)。

▶ドハ外相、イランを訪問。ベラヤティ外相と会談。16日にバングラ・イラン共同声明発表。

16日 ▶Sonali 銀行、1982年12月で4億8000万タカの純益。前年度2億3000万タカで増加率は108%。同銀行の外国為替業務は81年177億6390万タカから82年228億2430万タカで増加率28%。

▶アワミ連盟内部分裂。Abdur Razzak を中心とするグループは Hasina Wajed (故ムジブル・ラーマン大統領の娘)率いる主流派から分離。分裂の原因は、81年の党代表選挙の時から潜在し、今回 Chhatra League の Jalal-Jahangir を承認するか否かで対立が表面化した。

18日 ▶第25回印バ河川共同会議、ダッカで開催。印代表は Mirdrha 灌漑相他12名。バングラ代表は Obaidullah Khan 農業相他12名。

▶Mohabbat 内務相、モテジール警察署開署にあたり、「警察は国民の友達たれ」と励ます。

▶整備完了されたタナを Upazilla (Upa-Zilla)と命名。

▶Bangladesh Freedom Fighter Welfare Trust、チッタゴンにジュース工場を開設。

19日 ▶金日成主席、エルシャドの18項目開発計画を評価、カーン DCMLA の今回の訪問は2国間の友好に大きな役割を果たしたと言明。

▶エルシャド、行政組織・改革省を新設。同相に Mohabbat Jan Chowdhury を任命。

20日 ▶Mahbubur Rahman 地方自治相、米、日本、英国訪問を終えて帰国(12日間)。米は対バ援助に積極的、日本はバングラの現状に同情的であったと報告。

21日 ▶インド・バングラ、ティエスタ川の流水分割に関する協定に調印。内容は流水の39%をインドが、36%をバングラが活用することができ、25%を分割しないで保留すること。1985年まで有効。保留水は85年以降に科学的調査研究に基づいて分割される。

22日 ▶西ベンガル、ティエスタ川流水分割に関する印バ協定に不満の意を表明。Nani Bhattacharaya 西ベンガル州灌漑相は同協定は西ベンガル州の食糧生産を妨げると発言。

23日 ▶ベンガル語委員会(Bangla Bhasha Committee)、ベンガル語のあらゆる場での使用を提言。たとえば授業、試験、職業上。

25日 ▶エルシャド、モルジブを訪問(滞在予定4日間)。Gayoom 大統領と会談。30日バングラ・モルジブ共同声明発表。エルシャドは最初スリランカも訪問する予定であったがスリランカの国内事情が不安定なため延期した。

26日 ▶エルシャド、一時停止中の憲法を総選挙前に復活させると宣言。

31日 ▶ドハ外相、南アジア外相会議出席のため訪印。

## 8月

1日▷47タナ、整備完了。これで国内の Upa-Zilla は310になった。

▷南アジア外相会議、ニューデリーで開催。ドハ外相出席。

▷エルシャド、土地改良は農村の生活を再編すると説明(地主33.3%、小作人33.3%、残りの33.3%は生産に寄与する者へ配分される)。

2日▷エルシャド、学生の政治活動禁止を呼びかけ。

▷ドハ外相、ガンジー首相を訪問、その後ネパール、ブータンの各外相と個別に会談を行なった。

4日▷ダッカ大学で暴動。13名の学生を含む18名がけが。Chhatra Sangran Parishad 支持派と DUCSU Ziauddin Bablu 支持派が衝突。

▷チッタゴンで大洪水。2人死亡。

6日▷エルシャド、洪水被災者救済のため軍および公共団体は全力を尽すと説明。

8日▷ブレム・タイ首相、来バ(3日間の滞在)。両国間では1960年代初期にプミボン国王とシリキット王妃が来バ、1979年に故ジア大統領がタイを訪問している。9日、エルシャドと会談。

10日▷Yaqub Khan パキスタン外相、来バ(滞在期間3日間)。12日、2国間のビザ協定に両国調印。本年10月1日より航路および海路の途中下車で72時間以内の滞在にはビザが不要となる。

12日▷Islami Bank Bangladesh Limited(IBBL)、開設。イスラムのシャリアに基づいて創設された最初の民間銀行である。国内外の35の団体および個人により投資される。

13日▷印政府、バングラとの国境に鉄条網を設けることを決定。バングラからの移入者をチェックするため3300km(西ベンガル州およびアッサム沿い)45億<sup>ルピー</sup>をかけて工事を行なう。

14日▷常設高等裁判所、Agrabad に開設。先月の Barisal に引き続き、近日中に Sylhet にも開設される予定。

16日▷エルシャド、政府は来る Upa-Zilla の選挙のためにいかなる議長、団体、政党をも推せんしなと言明。

18日▷Aminul Islam 労働・人的資源相、イラクから17日に帰国。生ジュートをイラクへ輸出し、硫黄と化学肥料を輸入することに両国は合意したと発表。

19日▷印バ経済共同委員会、ダッカで開催。ラオ印外相、来バ。バングラ代表はドハ外相。20日、貿易取引、産業、科学技術、通信輸送に関する四つの実行グループ

を両国で結成すると決定。ラオ外相、エルシャドを訪問。DCMLA と会談。

22日▷インドの各紙はエルシャドの「インド政府がバングラとの国境に鉄条網を築くことは世界中にバングラを非難するよう要請したことを意味する」という発言を取り上げた。しかし、印政府はこのことに関する正式な決定を下していないとも報道。

▷閣僚会議、UP 条例、83を承認。UP は1人の議長と9人の委員と3人の女性委員により構成されることになった。

23日▷エルシャド、Bablu ダッカ大学中央学生連合事務総長率いる学生に「君たちが風紀を守るならば国は君たちに何でもしよう」と述べた。

24日▷ラオ印外相、「必要ならばバングラとの国境に鉄条網を築く」とニューデリーで言明。

25日▷Mohabbat 内務相、訪中。

26日▷ドハ外相、ジュネーブを訪問。8月29日に開かれるパレスチナ問題委員会出席のため。

▷アッサム州(印)知事、バングラとの国境沿いの鉄条網建設に即時着工する、と言明。ガンジー首相、Sethi 内務相の承認を得たと発表。バングラからの移入者は現在確かに少なくなっていると言いつつ、「1971年以降の移入者は間もなく検束されるだろう」「バングラ側の抗議については、バングラ・印政府間の問題なのでノーコメント」と記者団に答えた(ニューデリー)。インド紙はアッサム州で移民追い出しに反対する暴動が発生、2人死亡、30名が逮捕されたと報道した。

27日▷エルシャド、18項目計画実現のため国民の協力を呼びかけ。

▷エルシャド、印政府に国境柵建設計画を取り下げるよう要請。「バングラのような平和な物価の安い地域からインドのように暴動の多い国へ移る人間がいるはずはない」と言明。

28日▷エルシャド、Pabna で人口抑制を国民に呼びかけ。

29日▷Mahabbat 内務相、趙中国首相と会談。同首相はバングラの経済政策を評価していると言明。

30日▷エルシャド、国内生産可能なものの輸入を禁止。

31日▷バングラ、ジュネーブで開催中の国連パレスチナ問題会議で、イスラエルの全面的撤退を要求。ドハ外相が出席。エルシャドはメッセージで同主張を行なう。

## 9月

2日 ▶IMF 調査報告書、「バングラは過去数年の困難な状況を克服した」「工業製造部門は停滞、農業生産は回復、実質GDP伸び率は3%」「国際収支の均衡は海外出稼者の送金によるところが大きい」と発表。

3日 ▶エルシャド、*Far Eastern Economic Review* のインタビューに「もし国民が望むなら、私は軍服を脱いで政治家になる意志がある」「政党の乱立はしかるべき政治機関の確立により見直されるべき」「バングラに軍事政権を恒久化するつもりはない」と答えた。

4日 ▶未決の訴訟事件、6万2000件に。閣僚会議は民事訴訟法の改正を決議。5日、1年以内にこれらの民事訴訟事件を処理すること、および以後1訴訟は21日以内に公訴状が提出されなければ無効となることを決定。

7日 ▶小学校1, 2, 3年生の教科書、1984年から無償化。

8日 ▶アワミ連盟の Razzak 派、Hasina 派と分離断絶することを決定。Razzak 派は Hasina は故ムジブル大統領の名を藉りて帝国主義に走り党統一を乱していると非難。

▶Rahman 地方自治相、今後10年間に358億6000万タカをかけて、農村開発計画を実施すると発表。137億6000万タカを下部組織開発に、125億タカを灌漑に96億タカを生産、雇用に投入する。

9日 ▶エルシャド、コーランの教義に基づく秩序回復を呼びかけ。

10日 ▶Khan DCMLA バングラ人専門技術者を外国人に優先して雇用することを決定。

13日 ▶閣僚会議、「女性に対する残酷な行為に関する条例」公布を決議。女性の誘拐・売買・強姦および婚資支払いは終身刑または14年までの禁固刑、罰金等の厳罰により処罰される。

▶アジア開発銀行、7767万SDR (8200万ドル相当) の対バ借款を承認。返済期間30年、据置10年。年間サービス料1%。燃料輸送などのため。

14日 ▶50タナ整備完了。組織整備が完了されたタナは計360になった。

▶地方自治条例 (UP 条例) 公布。

15日 ▶Velayati イラン外相、来バ。エルシャドを訪問。17日、ドハ外相と会談。国際情勢、地域、相互協力について話し合いが行なわれた。

20日 ▶(ワシントン) IDA、1億ドルの対バ借款、返済期間50年、据置10年、年間サービス料若干。農村開発のため。

21日 ▶Faridpur 等27タナで大洪水、17名死亡。640万

タカ相当の稲・麦に影響。

22日 ▶(ダッカ) エルシャド、「政府は民主主義復活のため尽力している」と言明。

23日 ▶ドハ外相、訪米。第38回国連総会出席のため。

24日 ▶David Waddington 英内務相、来バ (4日間の滞在)。移民に関する事で話し合いを行なうため。今年6月までに英移住希望のバングラ人は1万1591名のほり印・バに比べ高い数字である。

25日 ▶大洪水各地で被害。9県、62 upa-zilla に被害が出ている。政府は現在260万タカと1万5000マウンドの食糧援助を実施。

▶洪水の被害増大。死者70名。Faridpur, Rangpur Mymensingh にも被害地域が拡大。

26日 ▶Islam 労働・マンパワー相、15~30歳の青年層育成計画を発表。予算は4000万タカ。主として若年層の失業対策である。

27日 ▶ドハ外相、レーガン大統領、シュルツ國務長官と会談。

29日 ▶エルシャド、大統領および議会選挙は憲法停止のままで行なうと宣告。憲法復活のための活動は継続するとも言明。

## 10月

1日 ▶韓国セマウル運動理事長 Kyung Hwan Chun を団長とする代表団が来訪、エルシャドと会談。農村開発についての意見交換を行なう。

2日 ▶サウジ、洪水被災者救済のため3000万ドルの対バ援助。

3日 ▶エルシャド、丘陵地帯を「特別経済区域」として開発するための特別5カ年計画を発表。同計画は農工業をはじめ教育設備の拡大を盛り込み、予算はすでに全体の5カ年計画のなかに確保されている。

4日 ▶(ニューヨーク)訪米中のドハ外相、Illueca 国連総会理事と会談。同外相は、Ali Akbar イラン外相、Fernando ベルー外相とも個別に会談した。

▶Shawkat Ali 退役陸軍大佐は、Hasina Wajed は AL 分裂の原因をつくっていると非難。Razzak 派と Hasina 派の分裂以降、Hasina の指導力は失われていると述べた。

5日 ▶第3次5カ年計画(1985~90年)発表。総予算2850億タカ(第2次5カ年計画1980~85年の65%増)、国内貯蓄率をGDPの4.3%(1979~80年)から10.3%に、GDP成長率目標を6.8%(5.4%, 1980~85年)、人口増加率を2.2%(2.4%)に設定。予算総額のうち外国援助を35%(41.2%, 1980~85年, 81.2%, 1978~80年)に抑え、1人当り所得を747タカ(1979~80年)から1078タカ(1989~90年)に増加させる(いずれも1972~73年度固定価格)等が盛り込まれている。

6日 ▶エルシャド、民主主義発展を阻む人々に対する抵抗を国民に呼びかけ。

▶(ニューヨーク)訪米中のドハ外相、ファイサル・サウジ外相と会談。

7日 ▶Mahbubur Rahman 地方自治相、一時停止中の現行憲法はALとBNPによってそれぞれの政権担当時に改正されたもので議会本位制から大統領本位制へ変更したのはBNP政権時代であると述べ、このことはすでに国民の総意となっているとの見解を発表した。

▶ドハ外相、第3世界の結束強化のため、Group-77に、20カ条プランを提案。同提案には、G-77カ国間で開発に関する共通の印刷物を発行すること等、経済協力開発に関するプランが盛り込まれている。

8日 ▶Nurul Islam 選挙管理委員長、UP 選挙期間を、1983年12月27日から1984年1月10日までにする、と発表。全 Paurashava の選挙も同時進行。立候補届は11月15~20日まで。

▶(ニューヨーク)ドハ外相、Perez 国連事務総長と会談。

11日 ▶エルシャド、ラングーンにおける韓国要人爆死に、弔意表明。

▶エルシャド、女性に対する残虐行為に死刑または終身刑、14年以上の禁固刑をもって処罰する条例公布。

▶AL (Hasina) 分解。5人の党中心人物の除名により事実上分解することとなった。除名されたのは、Mahiuddin Ahmed 幹部、Abdul Momin Talukder 幹部、Abdur Razzak 書記長、Syed Ahmed 書記、Yusuf 文化担当書記。Mohiuddin は党分解の責任は Hasina にある、と非難。

12日 ▶エルシャド、「18項目計画は開発計画であって政治的なものではない」と言明。

▶ラジュシャヒ大学前総長 Moslem Huda、戒厳令規則 No. 9 違反により解任。

14日 ▶エルシャド、「幾つかの反政府集団が国内を混乱に陥れようとしている。国民と政府は力を合わせて平和維持に努めるべきである」と言明。

▶ドハ外相、米国から帰国。

▶Muhith 蔵相、アブ・ダビ訪問。

▶前 AL Razzak 派、BKSAL (Bangladesh Krishak Sramik Awami League) 路線採用を決定。

15日 ▶Hashim 情報相、食糧増産により輸入を大幅削減する、と言明。

19日 ▶エルシャド、教育行政にコンピューター・システム導入を宣言。

22日 ▶印バ河川共同会議(次官級会議、20日開催)、両者の歩み寄りなきまま終る。印代表は Padhey 灌漑相、バングラ代表は Shamin Ahsan 灌漑省次官補。

23日 ▶エルシャド訪米。エルシャドはレーガン大統領の招待を受けて、22日アメリカに到着。25日にレーガン大統領と会談、Hopper 世銀総裁とも会談。レーガン大統領は対バ援助の継続を約束し、この日6500万ドル相当の食料援助供与に関する協定に調印。26日には『ワシントンポスト』紙のインタビューに答え「大統領選挙は84年中頃に予定している」、「アメリカとの友好関係は不滅であるが軍事援助や武器購入の事実はない」などと語った。なお27日にはヒューストンを訪問。

24日 ▶AL (Razzak) は特別総会を開き、125名から成る組織委員会を結成、議長に Mohiuddin Ahmed、書記長に Abdul Razzak (BKSAL) を選出。メンバーには Abdul Momin Talukdar, Shaukat Ali 退役大佐らが含まれている。なおこの日 AL (Hasina) の Hasina 総裁は、「わが父ムジブル・ラーマンの遺志を踏みにじろうとする政治家とは対話できない」として、Razzak 派の動きを非難した。



## 11月

1日 ▶全国ゼネスト。15政党連合と7政党同盟が各々呼びかけの全国ゼネストが実施され、主要都市は午前6時から6時間はほぼマヒ状態となった。このゼネストは、戒厳令解除、政治活動の解禁、議会選挙の実施、基本的権利の復活、政治犯の釈放等5項目を要求してのもの。

2日 ▶Khan DCMLA、公共の利益を害する政治活動には厳しい措置を取る、と声明。

▶エルシャド、香港訪問。

3日 ▶(ダッカ)中・パ経済合同委員会設置に両国調印。訪パ中の Lu Xuejian 対外経済貿易副部長とバ当局との間で行なわれたもの。

4日 ▶エルシャド、アメリカ公式訪問を終え、帰国。

▶エルシャド、「現政府は平和な民主主義を犯すいかなる行為も許さない。現政府に不満のある政治家は1984年半ばの大統領選に出馬し国民の審判を問え」と発表。

7日 ▶37タナ、組織整備完了。これで全てのタナが、Upazila になり、397タナ全ての組織整備は終了した。

8日 ▶全タナの組織整備完了に、エルシャド、「バングラは新しい向上の時期に入った」と声明。

9日 ▶エルシャド、「国内の食糧備蓄量は充分である。価格は現状を維持する。生産活動を妨げるストライキ等の行動は慎むべきである」などと述べた。

10日 ▶エルシャド、「選挙スケジュール変更はない」と宣言。これは、議員選挙を大統領選より先に行なうことを主張する BNP リーダー Begum Khaleda Zia をはじめとする政治家向けに発表されたもの。

11日 ▶日本、26億7000万タカの対バ借款。16億タカ、10億7000万タカの2度に分けて支払われる。年間1.25%の利子率、返済期間30年、支払猶予期間10年。

12日 ▶エルシャド、政治家たちに話し合いによる民主主義化を要請。戒厳令から民主主義政治への移行期に各政党間の抗争を鎮静させるため11月16日を「民主主義の日」と定めることを発表。

14日 ▶エリザベス女王夫妻、来バ(4日間)。女王の来バは1961年(東パキスタン時代)以来2度目。

▶エルシャド、大統領選挙を1984年5月24日、議員選挙を1984年11月25日に実施する、と発表。

16日 ▶7政党同盟、選挙日程に反対意志表明。議員選挙を大統領選より先に行なうこと、および5項目の要求を政府が受け入れることを要請。Azizur Rahman BNP 副委員長は11月16日「民主主義の日」は「民主主義消滅の日」だと厳しく非難。AL(H)(R)をはじめ15政党連合も同様に反対意志表明。11月18日から24日まで各政党は選挙日程反対のための会合およびストライキを予定し

ている。

17日 ▶エリザベス女王夫妻、ニューデリーへ。

▶エルシャド、国民に政治家たちの選挙反対運動に煽動されないように呼びかけ。

18日 ▶Kaunda ザンビア大統領、来バ。アフサン大統領の招待。滞在期間は4日間、ザンビア大統領は独立以降のバングラの発展を高く評価すると発言。

▶ADB 8200万ドルの対バ借款。無利子。

19日 ▶トルドー加大統領、来バ、公式訪問。滞在期間4日間。20日、「バングラは独立以降確実に進歩している」と評価。エルシャドを訪問。21日、トルドー、エルシャドと会談。加、8728万ドルの対バ借款。工業製品を加から輸入するためおよび農村開発用。

20日 ▶新党結成の動き。BNP 総裁 Shamsul Huda Chowdhury と民主主義同盟(DL)および統一人民党の指導者らが、エルシャドを含めて新党を結成する予定であると発表。21日には、この新党はエルシャドの提唱した18項目を基本政策として“Janadal”党(人民党)と命名することを発表。

22日 ▶(ニューデリー)エルシャド、訪印。第23回英連邦首脳会議出席のため。夫人、ドハ外相も同行。

24日 ▶エルシャド、ガンジー首相を訪問。

▶Mahbub 地方自治相、大統領選を議員選挙に先行させるのは違憲ではない、と元国会議長 Mirza Golam に対し反論。憲法123条を巡る論争。

25日 ▶(ニューデリー)エルシャド、Nujoma SWAPO 総裁と会談。ドハ外相も同席。ドハ外相はラオ印外相とも会談した。

26日 ▶エルシャド、帰国。

▶エルシャド、「いつでも政治家たちと話し合う準備が整っている」「来月の OIC 外相会議では、国のイメージをけがすようなことはしないで欲しい」「私の党が当選しなかったら、当選した党に政権を渡す気持だ」。

27日 ▶Janadal、結成。委員長の有力候補はアフサン大統領。Huda BNP 委員長、Mizan AL 委員長、ALi Amjad PGP (Pragatishil, Ganatan Party) 委員長が出席。

▶アフサン大統領、Janadal 委員長に決定。党员209名。

28日 ▶戒厳令強化。ダッカで暴動。4人死亡。抗議者10名、警官223名、兵士60名が負傷。野党のストライキによるもの。エルシャドは直ちに遺憾の意を表明する声明を発表。ダッカ大学は無期限閉鎖。

30日 ▶チッタゴンでも暴動。

▶エルシャド、「軍は国内を鎮圧するためにいかなる犠牲も惜しまない」と述べる。

## 12月

1日▷特別閣僚会議召集。野党統一によるストライキおよび暴動に関して一般民衆は現政府の方針に満足している、と報告。

▷カルカッタ駐在のバングラ高等弁務官事務所近くでインドの学生、反バングラのスローガンを掲げて暴動を起こす。AISF (All India Students Federation), エルシャドの肖像を焼く。

3日▷エルシャド、「警察は国内の平和のため多大な犠牲をはらって尽力している」。

4日▷第14回 OIC 会議ダッカで開催。2日間は事務レベル、6日から5日間は外相レベルの会議となる。参加国は41イスラム教国。

▷ダッカ市内の学校再開。大学は12日に再開される予定。

5日▷エルシャド、Upazila の選挙は UP 選挙の後予定どおり行なう、と言明。

6日▷ドハ外相、第14回イスラム国外相会議の議長に選出される。エルシャド、イスラム国間の結束強化を呼びかけ。

7日▷OIC 外相会議の焦点はイ・イ戦争調停およびナムビア独立と PLO に関する問題となる。8日、アフガニスタン問題について討議された。イスラム国間貿易の拡大も呼びかけられた。10日、イスラム国首脳会議は、1984年1月16日から1月18日まで、カサブランカで開催されることに決定。同月2日から14日までラバトでイスラム国外相会議を開催することなどを決定。

10日▷「ダッカ人権宣言」、ICFM で承認。ISESCO (イスラム教育科学文化協会)、活動開始。

11日▷11月末から保護拘留されていた Begum Khaleda Zia と Sheikh Hasina Wajed が釈放された。

▷エルシャド、大統領に就任。戒厳司令官エルシャド中将は自ら大統領に就任した。アフサスディン大統領は辞任。内閣を一担解散、しかし再組閣までの間現閣僚ポストの異動は行なわない。これらは、「1983年第Ⅲ号布告」を発令することによって決定され、大統領は憲法の復活、閣僚指名など大幅な権限集中が決められている。なお、エルシャドはラジオ、テレビ放送を通じて「民主主義復活のため、政治家達とは十分に話し合う用意があり、そのために大統領に就任したのだ」などと述べた。

12日▷バングラデシュ銀行年次経済報告発表。これによると GDP 成長率3.72%、農業部門4.73% (前年度-0.62%)、工業部門4.41% (前年度2.89%)。食糧生産量は1530万ト (同1436万ト) で0.6%増。生ジュート生産は16%、茶生産は12.58%増。外貨準備高は85億6000万

タカ (同61億6000万タカ)。輸出収入は161億6200万タカで前年度比28.72%増。輸入は288億7000万タカ。

14日▷政府、11月22日、28日の事件で逮捕された者を釈放する、と発表。

16日▷バングラデシュ解放記念日。

17日▷エルシャド、イスラム精神の強化を唱える。

19日▷閣僚会議、農業労働者最低賃金条例1983を承認。最低日給は、3.5シアール (約7円) の米もしくはそれに相当する賃金。

20日▷エルシャド、軍事力は国内の結束を高め独立を確保し開発のために役立つと述べる。

21日▷Dhaka—Bahadurabad 急行列車、脱線事故。16人死亡、200名が負傷、うち60名は重傷。

22日▷選挙管理委員会、選挙前48時間の集会、会合を禁止。具体的に27日から始まる UP 選挙で、25日0時から27日0時までが集会禁止となる。

23日▷Shanti Bahini と名乗るメンバー、エルシャドに降服。このメンバーは10月3日からチッタゴンの丘陵地帯に武力装備して抵抗を続けていた。

25日▷エルシャド、旧ダッカ市貧民街を訪問。3000万タカを同街開発のために補助金を供与すると発表。

27日▷957 UP で選挙開始。国内 UP 総数は3443。これらの選挙が1984年1月10日までに実施される。

▷サウジ開発基金 (SFD) は、灌漑設備のため2500万ドルの対バ借款、返済期間20年。支払猶予5年、サービス料1%。

28日▷Shafiul Azam 商工業相、国内外の需要を満たすジュート生産の増大、そのための援助拡大を要請。

▷エルシャド、国軍士官学校卒業式に出席し、卒業生に、たゆまぬ努力と訓練の継続を呼びかけ、軍の重要性を説く。

30日▷UP 選挙、1712 UP で完了。Madaripur では対立候補間で銃撃事件があった。Rangpur では女性の UP 委員長が誕生した。

1 閣僚名簿  
2 主要政党と指導者

1 閣僚名簿

(1983年12月末現在)

大統領	H.M. Ershad 陸軍中將
戒厳令司令官, 国防相	H.M. Ershad 陸軍中將
戒厳令副司令官, 通信相	Mahbub Ali Khan 海軍少將
戒厳令副司令官, エネルギー・鉱業相	Sultan Mahmud 空軍少將
商工相	S.M. Shafiq Azam
食糧相	A.G.Mahmood (退役空軍少將)
外相	A.R. Shams-uda Doha
財務・計画相	A.M.A. Muhith
労働・マンパワー相	K.M.Aminul Islam (退役空軍少將)
法務・土地計画相	Khandaker Abu Baker
公共事業相	Abdul Mannan Siddique 少將
保健・人口計画相	M. Shamsul Haque 少將
地方自治相	Mahbubur Rahman
農業相	A.Z.M. Obaidullah Khan
社会福祉・婦人問題相	Shafia Khatun (Dr.)
教育・宗教相	A. Majeed Khan (Dr.)
情報相	Syed Najumuddin Hashim
内務相	Mohabbat Jan Chowdhury 少將

2 主要政党と指導者

〔与党〕

Janadal (人民党) 委員長: A.F.M. Ahsanuddin Chowdhury

83年11月27日結成

〔7野党同盟〕

Krishak Sramik Party

書記長: Golam Rabbani

BNP(バングラデシュ民族党)

総裁: Shamsul Huda Chowdhury

副総裁: Begum Khaleda Zia

Biplobi Communist League

書記長: Tipu Biswas

NAP(NURU 派) 総裁: Nurur Rahman

Gonotontrik Party 議長: Nurur Huda Mirza

B. Jatiya League リーダー: Ataur Rahman Khan

United Peoples' Party

チーフ: Kazi Zafar Ahmed

(注)このうち BNP の一部と UPP は Janadal に吸収合併。

〔15野党連合〕

AL (Hashina) 総裁: Sheikh Hashina

Gono Azadi League

チーフ: M. Abdul Rashid

NAP (Muzaffar) 総裁: Prof. Muzaffar Ahmed

BAKSAL 書記長: Abdul Razzak

JSD 書記長: Shahjahan Siraz

Samyabadi Dal (M-L)

議長: Md. Toaha

CPB 書記長: Md. Farhad

AL (Mizan) 書記長: Nurul Alam

Siddiqui

AL (Gazi) 書記長: Muzaffar Hossain

Paltu

NAP (Haroon) 書記長: Pankaj

Bhattacharya

Sramik Krishak Samajbadi Dal

リーダー: Nirmul Sen

Jatiya Ekota Party 書記長: Sardar Abdul Halim

Bangladesh Mazdoov Party

代表: Shah Alam

BSD 代表: Khulequzzaman

Bhuiyan

Samyabadi Dal 代表: Dillip Barua

Bangladesh Workers' Party

代表: Haider Akbar Khn

Rano

## 主 要 統 計 バングラデシュ 1983年

第1表 国内総生産とその構成	第6表 外国援助内訳
第2表 主要農作物生産高	第7表 マネーサプライ
第3表 主要工業生産量の推移	第8表 卸売物価指数
第4表 主要輸出入品目	第9表 貸金水準
第5表 国際収支	第10表 1983/84年度予算

第1表 国内総生産とその構成 (年度は7～6月)

(単位: 100万タカ)

	1979/80		1980/81		1981/82		1982/83 <sup>1)</sup>	
	総生産高	構成比	総生産高	構成比	総生産高	構成比	総生産高	構成比
農 業	35,803	54.6	38,340	55.4	38,102	54.6	40,045	55.3
製 造 業	5,365	8.2	5,837	8.5	6,006	8.6	6,054	8.6
大 規 模	3,649	5.6	—	—	—	—	—	—
小 規 模	1,716	2.6	—	—	—	—	—	—
建 設 業	3,727	5.7	3,522	5.1	3,840	5.5	3,663	5.1
電 気 ・ ガ ス	517	0.8	223	0.3	255	0.4	298	0.4
運 輸 業	3,536	5.4	3,683	5.3	3,676	5.3	3,757	5.2
商 業	4,869	7.5	5,107	7.4	5,068	7.3	5,179	7.2
住 宅 サ ー ビ ス	3,035	4.6	3,156	4.6	3,220	4.6	3,317	4.6
行 政	3,943	6.0	4,244	6.1	4,372	6.3	4,608	6.4
銀 行 ・ 保 険	522	0.8	561	0.8	581	0.8	612	0.8
サ ー ビ ス	4,208	6.4	4,495	6.5	4,671	6.7	4,927	6.8
国 内 総 生 産	65,525	100.0	69,168	100.0	69,791	100.0	72,460	100.0
1 人 当 り 所 得 (タカ) <sup>2)</sup>	747		769		760		770	

(注) 1972/73固定価格による。数字は計画委員会の推計。

1) 暫定。2) Ministry of Finance, *Bangladesh Economic Survey, 1982/83*の推計。

(出所) Govt. of Bangladesh, Planning Commission 推計。

第2表 主要農作物生産高 (年度は7～6月)

	単 位	1977/78	1978/79	1979/80	1980/81	1981/82	1982/83*
米	100万トン	12.50	12.65	12.54	13.66	13.42	14.00
小 麦	100万トン	0.34	0.48	0.81	1.08	0.95	1.10
シ ュ ー ト	100万ペイル	5.36	6.44	5.96	4.99	4.69	4.92
砂 糖	100万トン	6.67	6.83	6.34	6.49	7.02	7.30
ポ テ ト	1,000トン	849	895	903	980	108	120
種 子	1,000トン	189	190	167	170	251	250
豆 類	1,000トン	236	225	212	220	202	250
タ バ コ	1,000トン	49.1	49.5	42.7	47.0	50.0	54.0
茶	100万ポンド	81.2	79.4	84.2	92.1	85.1	92.0

(注) \* 暫定。

(出所) *Bangladesh Economic Survey, 1982/83*。

第3表 主要工業生産量の推移（年度は7～6月）

	単 位	1977/78	1978/79	1979/80	1980/81	1981/82	1982/83*
ジュー ト 製 品	1,000トン	546	501	522	581	578	393
綿 布	100万ヤード	84.5	88.4	92.4	88.8	78.4	48.9
綿 糸	100万ポンド	106.9	110.6	112.9	121.7	109.9	84.6
紙	1,000トン	30	31	32	30	32	27
新 聞 用 紙	1,000トン	32	37	41	34	44	30
砂 糖	1,000トン	175.3	130.7	93	143	199	175
尿 素 肥 料	1,000トン	212	295	361	346	345	376
石 油 製 品	1,000トン	1,017.3	1,035.0	1,180.8	1,481.3	1,135.0	919
セ メ ン ト	1,000トン	338.6	320.0	343	345	325	335
鉄 鋼	1,000トン	111	122	133	136	107	50
マ ッ チ 茶	100万グロス	8.1	9.1	9.4	6.9	7.9	5.5
	100万ポンド	77.4	75.3	61.7	90.0	85.7	64.8

(注) \* 暫定。

(出所) Bangladesh Bureau of Statistics, *Economic Indicators of Bangladesh*, Aug 1983; *Bangladesh Economic Survey*, 1982/83.

第4表 主要輸出入品目（通関ベース）（年度は7～6月）

（単位：1,000万タカ）

	1978/79	1979/80	1980/81	1981/82	1982/83*
輸 出					
ジュー ト 製 品	425.1	606.7	599.0	584.0	757.0
ジュー ト	217.9	222.1	194.3	203.8	257.0
茶	62.1	51.0	66.5	76.0	110.0
皮 革・革 製 品	114.7	101.5	92.6	126.4	125.0
魚・魚 加 工 品	52.2	57.3	65.3	105.9	161.0
紙・新 聞 用 紙	10.9	22.4	15.2	13.1	10.0
ナ フ サ 他	14.2	96.8	78.6	85.2	75.0
そ の 他	31.1	28.4	42.9	41.4	76.7
計	928.2	1,185.2	1,159.9	1,255.54	1,600.00
輸 入					
食 糧(米・麦・そ の 他)	253.7	620.6	466.6	582.9	1,140.0
食 用 油	112.7	148.6	184.0	206.2	400.0
原 材 料(除 石 油)	294.7	177.8	242.7	139.8	400.0
石 油・潤 滑 油	228.2	257.6	312.6	374.9	680.0
機 械・輸 送 機 器	499.7	585.6	713.6	690.4	975.0
そ の 他 完 成 品	372.6	538.2	725.9	995.4	1,443.8
化 学 薬 品	301.3	336.5	366.5	374.9	267.2
そ の 他	109.8	37.3	51.4	89.9	159.0
計	2,172.7	2,725.4	3,126.6	3,454.4	5,465.0
貿 易 収 支	-1,224.5	-1,540.2	-1,966.7	-2,128.8	-3,865.0

(注) \* 暫定。

(出所) *Bangladesh Economic Survey*, 1982/83.

第5表 国際収支(年度は7~6月)

(単位:1,000万タカ)

	1979/80	1980/81	1981/82	1982/83 <sup>1)</sup>
貿易収支	(-)2,541.70	(-)3,034.40	(-)3,936.40	(-)6,865.00
輸入(CIF)	(-)3,692.40	(-)4,368.80	(-)5,390.90	(-)8,465.00
輸出(FOB)	1,150.70	1,334.40	1,454.50	1,600.00
サービス収支(純)	6.20	24.30	(-)140.30	(-)261.00
移転収支(純)	327.63	623.90	772.50	1,183.00
経常収支	(-)2,207.87	(-)2,386.20	(-)3,304.20	2,943.00
資本収支	2,102.77	2,087.30	2,525.20	3,195.00
食糧援助	589.00	310.30	462.30	618.00
商品・現金援助	657.57	825.10	872.80	1,128.00
プロジェクト援助	729.00	938.70	1,190.10	1,449.00
信託基金	127.20	13.20	...	...
債務償還	(-)132.00	(-)72.40	(-)94.20	(-)192.00
IMF勘定	2.90	271.60	104.30	159.00
引出し	169.80	459.60	149.20	318.00
支払い	(-)166.90	(-)188.60	(-)36.10	(-)169.00
短期資本(純)	48.50	31.39	415.80	(-)124.00
誤差・脱漏	(-)58.80	50.30	163.10	...
外貨準備増減 <sup>2)</sup>	249.50	10.10	190.00	(-)95.00

(注) 1) 暫定。 2) (-)は増を示す。

(出所) *Bangladesh Economic Survey, 1979/80, 1980/81, 1981/82, 1982/83.*

第6表 外国援助内訳(1971年12月~1981年6月30日)

(単位:100万ドル)

	1980/81 コミットメント	1980/81 実行額	1981/82 コミットメント	1981/82* 実行額
食糧援助	202.9	194.1	218.1	230.5
贈与	171.4	162.6	183.7	230.5
借款	31.5	31.5	34.4	...
商品援助	336.9	393.1	491.5	421.4
贈与	185.7	183.1	248.8	214.5
借款	151.2	210.0	242.7	206.9
プロジェクト援助	1,102.3	560.0	1,233.5	1,200.0
贈与	246.1	257.4	386.6	410.0
借款	856.2	302.6	846.9	790.0
合計	1,642.1	1,147.2	1,943.1	1,928.5
贈与	603.2	603.1	819.1	883.5
借款	1,038.9	544.1	1,124.0	1,045.0

(注) \* 暫定推計。

(出所) *Bangladesh Economic Survey, 1982/83.*

第7表 マネーサプライ

(単位:1,000万タカ)

年・月	現金流通量	当座預金	マネーサプライ (M <sub>1</sub> )	定期預金	マネーサプライ (M <sub>2</sub> )	外貨準備高
1971. 12	206.60	180.90	378.50	158.51	546.02	Nil.
1977. 6	356.26	669.96	1,026.22	796.71	1,822.93	483.32
12	490.22	766.05	1,256.27	701.77	2,165.65	338.47
1978. 6	504.33	771.57	1,275.90	711.90	2,210.24	404.78
12	632.89	951.84	1,584.73	1,105.64	2,690.37	468.89
1979. 6	693.40	1,131.31	1,824.71	1,252.99	2,806.63	593.95
12	730.81	1,046.46	1,772.27	1,417.23	3,194.50	633.20
1980. 6	693.40	1,131.31	1,824.71	1,531.47	3,356.18	405.31
12	826.74	1,157.05	1,983.19	2,014.76	3,998.55	525.23
1981. 6	935.12	1,215.10	2,150.22	2,222.31	4,372.53	450.88
12	974.06	1,219.79	2,193.85	2,291.87	4,485.72	302.40
1982. 6	905.67	1,249.90	2,155.57	2,563.09	4,718.66	199.64
12	993.75	1,483.93	2,477.68	2,845.13	5,322.81	441.10
1983. 4	1,096.79	1,252.67	2,349.46	2,959.66	5,309.12	603.53

(出所) *Economic Indicators of Bangladesh, Aug. 1983; Bangladesh Economic Survey, 1982/83.*

第8表 卸売物価指数(ダッカ市)

(1969/70=100)

年・月	農 業 生 産 物			工業生産物総合
	総 合	食 糧	原 料	
1977. 6	401	394	434	359
12	351	332	431	406
1978. 6	367	345	454	408
12	363	329	496	421
1979. 6	525	540	466	522
12	469	475	448	497
1980. 6	527	585	437	591
12	542	553	525	586
1981. 7	578	627	530	611
12	581	642	557	642
1982. 7	597	677	474	733
12	527	585	438	727
1983. 3	541	606	438	774

(出所) *Bangladesh Economic Survey, 1977/78, 1978/79, 1979/80, 1980/81, 1981/82, 1982/83.*

第9表 賃金水準(ダッカ市平均日給)

(単位:タカ)

	1977.6	1978.6	1979.6	1980.6	1981.6	1982.6	1983.6
農業労働者	熟練	10.00	12.00	15.00	15.00	17.00	26.00
	未熟練	8.12	10.00	12.00	12.00	14.00	17.00
漁業労働者	熟練	11.50	13.00	16.00	19.50	22.00	27.00
	未熟練	9.00	11.00	11.00	14.50	17.00	22.50
工業労働者	熟練	17.50	17.50	19.25	20.60	23.10	27.60
	未熟練	14.17	11.48	12.58	15.15	18.20	19.10
建設労働者	熟練	25.00	30.00	35.00	36.38	41.63	46.00
	未熟練	12.00	15.00	18.00	17.87	21.25	25.00

(出所) *Economic Indicators of Bangladesh, Aug. 1983; Monthly Statistical Bulletin of Bangladesh, July 1983.*

第10表 1983/84年度予算（年度は7～6月）

〔1〕 經常収支予算

（単位：1,000万タカ）

	1982/83 予算	1982/83 修正予算	1983/84 予算
歳入合計	2,637.82+130.00*	2,710.70	3,344.61+52.15*
税収	2,123.08+117.75*	2,029.02	2,609.00
関税	850.00	910.00	1,330.00
消費税	490.00	480.00	526.00
所得・法人税	300.10	315.00	310.00
売上高税	370.00	316.00	434.00
地租	31.00	24.77	60.00
その他	81.98	114.02	118.00
税外収入	514.74 +12.25*	550.90	566.61
鉄道収入	135.00 +13.00*	158.00	175.41
利子収入	105.76	99.70	93.20
国营工業収益	18.50	26.00	36.30
国营銀行収益	88.75	93.90	90.00
その他	166.73	173.30	171.70
歳出合計	2,037.63	2,146.70	2,413.54
徴税費	54.32	63.57	70.91
鉄道支出	147.98	168.12	177.66
外国債務利子	92.29	110.86	134.26
国内債務利子	132.12	114.56	116.87
一般行政費	66.99	76.77	75.02
警察・国境警備費	199.10	171.36	178.49
国防費	382.61	418.36	416.92
その他	626.12	829.60	917.41
予備費	200.00	0.50	197.00
小計	1,901.53	1,953.70	2,284.54
食糧会計補助金	136.10	193.00	129.00
經常収支余剰	600.19	564.00	931.07

（注）\*印は税率改正による。

〔2〕 1982/83年度開発計画予算

（単位：1,000万タカ）

	1982/83 予算	1982/83 修正予算	1983/84 予算
開発プログラム支出			
年次開発計画	2,700.00	2,977.02	3,483.86
F W	116.50	159.00	148.00
合計	2,816.50	3,285.26	3,631.86
資金			
国内	594.46	615.00	668.48
経常	600.19	564.00	931.07
国内	-175.73	(-)166.00	(-)135.00
国内	—	—	—
国内	25.00	25.00	28.00
国内	15.00	15.00	16.26
外国	2,222.16	2,362.02	2,815.56
P W	1,120.00	1,314.02	1,522.56
P W	880.00	900.00	1,116.00
P W	—	149.24	—
P W	105.66	148.00	177.00
P W	116.50	159.00	148.00
合計	2,816.62	3,126.26	3,483.86



## 〔3〕 1982/83年度開発計画投資配分

(単位:1,000万タカ)

	1982/83予算	(%)	1983/84予算	(%)
農業・農村開発・治水・灌漑事業	861.88	31.9	1,036.45	30.0
工業	308.63	11.4	396.07	11.4
電力開発	273.67	10.1	440.00	12.6
天然資源開発	183.85	6.8	233.37	6.7
科学技術研究	28.76	1.1	27.36	0.8
運輸・通信	455.18	16.9	423.88	12.1
住宅・公共事業	137.52	5.1	157.35	4.5
教育・訓練	114.96	4.3	150.27	4.2
一般行政	10.15	0.4	13.95	0.4
保健・家族計画	146.94	5.4	175.00	5.0
社会福祉・労働力開発	173.20	6.4	430.26	12.3
予備費	5.26	0.2	—	—
合 計	2,700.00	100.0	3,483.86	100.0

## 〔4〕 資本収支予算

(単位:1,000万タカ)

	1982/83 予算	1982/83 修正予算	1983/84 予算
資本収入	2,910.91	3,039.98	3,591.56
外国援助資金	2,490.39	2,904.98	3,425.56
借 入	1,335.13	1,623.96	1,986.00
贈 与	1,155.26	1,268.02	1,428.56
P.L 480-Ⅲ 資金	105.66	148.00	177.00
国内資本収入	(-) 72.52	(-) 135.00	(-) 166.00
資本支出	387.38	284.23	406.45
対外負債返済	85.21	182.00	179.00
公共企業投資	110.48	77.22	110.43
その他	191.69	25.01	117.02
資本収支余剰	1,961.48	2,620.75	3,019.11

## 〔5〕 外国援助予算

(単位:1,000万タカ)

	1982/83 予算			1983/84 予算		
	借 入	贈 与	計	借 入	贈 与	計
食糧援助	179.13	254.05	433.18	256.00	360.00	616.00
商品援助	514.00	397.21	911.21	670.00	446.00	1,116.00
うち食糧	(…)	(31.21)	(31.21)	(-)	(37.00)	(37.00)
うちその他商品	(514.00)	(366.00)	(880.00)	(670.00)	(409.00)	(1,079.00)
プロジェクト援助	642.00	504.00	1,146.00	900.00	622.56	1,522.56
合 計	1,335.13	1,155.26	2,490.39	1,826.00	1,837.56	3,663.56

## 〔6〕食糧会計

(単位：1,000万タカ)

	1982/83 予算	1982/83 修正予算	1983/84 予算
支出：外国援助による輸入	464.39	644.00	616.00
自国外貨による輸入	1,056.71	858.00	1,111.00
合 計(A)	1,521.10	1,502.00	1,727.00
収入：販売代金	701.10	739.00	621.00
F W P 資金	116.50	148.00	159.00
雑 収 入	11.10	20.00	23.00
そ の 他 収 入	9.20	—	—
前 払 い 調 整 金	11.00	6.00	9.00
経常収支からの補助金	136.10	193.00	129.00
合 計(B)	985.00	1,106.00	941.00
純支出 (A)-(B)	536.10	396.00	786.00

## 〔7〕予算概要

	1982/83予算	1982/83修正予算	1983/84予算
経 常 予 算			
収 入	2,767.82	2,710.70	3,344.61*
支 出	2,037.63	2,146.70	2,413.54
収 支 (a)	730.19	564.00	931.07
外 国 援 助 (贈与) (b)	1,155.26	1,268.02	1,428.56
資 本 収 支 (c)	1,440.79	1,771.96	2,163.00
外 国 借 款	1,335.13	1,623.96	1,986.00
P L 480	105.66	148.00	177.00
国 内 資 本 収 支			
国内借款及び資本支出 (食糧備蓄を除く)	(-)150.66	(-)214.00	(-)238.00
公 共 勘 定 (ネッ ト)	78.14	79.00	72.00
国内資本収支 (ネッ ト) (d)	(-) 72.52	(-)135.00	(-)166.00
資本収入計 (a+b+c+d)	3,253.72	3,468.98	4,356.63
予 算 外 収 入	40.00	86.00	44.26
食糧備蓄のための銀行借入金	85.00	—	136.00
開 発 投 資 ・ 支 出 資 本	3,378.72	3,554.98	4,536.89
公 共 部 門 開 発	3,378.60	3,554.98	4,588.86
年 次 開 発 投 資	2,700.00	2,977.02	3,483.86
年 次 開 発 以 外 の 投 資	26.00	33.96	160.00
食 糧 会 計	652.60	544.00	945.00
う ち F W P	(116.50)	(148.00)	(159.00)
う ち 食 糧 備 蓄	(536.10)	(396.00)	(786.00)
総 合 収 支	+0.12	—	+0.18

(注) \* 税率改正による増収を含まないので〔1〕表とは異なる。